*2023年3月
（使用上の注意改訂）

この説明書は、本剤とともに保管し、使用の際には、よくお読みください。

お子さま用熱さまし

こども解熱坐薬

（販売名：**キオフィーバ**）

第２類医薬品

◎お子さまの平熱は大人より高く、多少熱を出しても元気な場合もあります。しかし、高熱(一般に38度以上）の場合には、体力の消耗や熱性けいれんを招くおそれもあり、熱を下げることが大切です。
◎キオフィーバは、直接腸から成分を吸収しますので、胃を痛めず、早く作用して、効果的に熱を下げます。

使用上の注意

本剤は小児用ですが、解熱薬として定められた一般的な注意事項を記載しています。

してはいけないこと

（守らないと現在の症状が悪化したり､副作用･事故が起こりやすくなります。）

1.次の人は使用しないでください。
（1)本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
（2)本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を使用してぜんそくを起こしたことがある人。

2.本剤を使用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないでください。
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬

3.使用前後は飲酒しないでください。

4.長期連用しないでください。

相談すること

1.次の人は使用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
（1)医師又は歯科医師の治療を受けている人。
（2)妊婦又は妊娠していると思われる人。
（3)高齢者。
（4)薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
（5)次の診断を受けた人。
心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2.使用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症状	関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ	精神神経系	めまい
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振	その他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症状
ショック(アナフィラキシー)	使用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群(スティーブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死融解症、急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
薬剤性過敏症症候群	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根等）のはれ等があらわれる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

3.1回使用して症状がよくならない場合は使用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

（裏面も必ずお読みください。）

成分・分量

1個(950mg)中　アセトアミノフェン……100mg　　添加物としてハードファットを含む

効能・効果

小児の発熱時の一時的な解熱

夜間などの
急な発熱に

口から
のみにくい時に
(吐きやすい、食欲が
ない、せきがひどい等)

用法・用量

次の量を肛門内に挿入してください。

年令	1才未満	1～2才	3～5才	6～12才
1回量	使用しないこと	1/2～1個	1個	1～2個
使用回数		1日1回		

1/2個を使用する場合

斜めの線にそって、カッターナイフやハサミで切り、1個を使用する場合と同様の方法で使用してください。

〈注意〉

(1)保護者の指導監督のもとに使用させてください。
(2)用法・用量を厳守してください。
(3)1才未満の乳児には使用しないでください。
(4)使用は1日1回とし、2日続けて使用しないでください。
(5)肛門にのみ使用し、内服しないでください。

坐薬の使い方

薬がすぐ出ないように、なるべく排便をすませてから使いましょう。

先のとがった方から
開いてください。

お尻の奥まで差し込んでください。仰向けが挿入しやすい場合が多いです。挿入しにくい場合は、先だけをオリーブ油や水で濡らし、すべりやすくしてください。坐薬が外へ出てしまわないように、必ず数十秒間は指でそのまま押さえておいてください。

発熱時の注意

○汗ばんだ衣類は早めにとりかえましょう。
○発熱により汗をかいて、水分が失われます。水分をきっちり補いましょう。
○熱の上がり際に寒くてゾクゾクしている時は、身体をあたためてあげましょう。
○氷枕などで頭を冷やすと、楽になる時があります。ただし、冷やすことで熱が下がるわけではありません。
　嫌がるようであれば、無理に冷やす必要はありません。

保管及び取扱い上の注意

(1)直射日光の当たらない湿気の少ない30℃以下の涼しい所(冷蔵庫等)に、
　右図のように坐薬の先端を下に向け、立てて保管してください。
(2)小児の手の届かない所に保管してください。
(3)誤用をさけ、品質を保持するため、他の容器に入れ替えないでください。

外箱の正面

製品についてのお問合せは、お買い求めのお店、又は下記にお願い致します。
お客様相談室　樋屋奇応丸株式会社　電話：072-871-2990
〒574-0014　大阪府大東市寺川3-3-63　受付：月～金曜日(祝日を除く)9:00～17:30

〈発売元〉樋屋奇応丸株式会社
〒530-0043　大阪市北区天満1-4-11
〈製造販売元〉樋屋製薬株式会社 大阪工場
〒574-0014　大阪府大東市寺川3-3-63